

## 上海の記者らカレッジ訪問

上海のジャーナリスト、老年大学関係者ら5人が1月30日、シルバーカレッジを訪れ現役・OB9人と懇談しました。超高齢化が進む日本のシルバー世代の生き方をさぐるとの趣旨で、江澤福氏（国14）を通じて話がありカレッジ事務局とわが対応しました。



一行は、昼前に到着。校内見学のあと学習室1に降り、出迎えた松島事務局長と西田理事長が「ニーハオ」と歓迎の挨拶。カレッジのPRビデオを見たあと、弁当を共にしながら約1時間和やかに歓談しました。上海にも老年大学があり、KSCの運営・規模・カリキュラムについて質問が集中。中国では老人がボランティアをする習慣がないそうで、わの組織に大きな関心を寄せ「上海でも卒業生の組織を作りたいですね」と。日本と違い一般の大学が、老年大学を併設しているため、カリキュラムは多彩。芸術・音楽・社会科学・スポーツから英語・日本語まであり、設備も大学と共用なのでかなり充実している印象です。

わからは、70あるサークルが日常的にボランティア活動をしている現状を説明。今年は東北支援に力を入れていることを強調しました。食後に抹茶を出したところ、「ヘルシー。おいしい」と好評でした＝写真（古後健一撮影）。

「カレッジと上海老年大学との間で、今後なんらかの形で交流しましょう」との話も飛び出て意気投合、午後1時すぎに散会しました。帰途、バスで村内を1周して、窓から紅葉や各施設を見てもらいました。ごく短時間の訪問だったので、カレッジ側からあまり発言ができず残念でしたが、先方からは「素晴らしい環境で学ぶ神戸の老年世代がうらやましい。多謝、多謝」と何度もお礼を述べられ、喜んでもらえたようです。（広報・南形 徹）

## 印象深いカレッジ、いい勉強に

楊徳広（上海師範大学老年大学顧問）

われわれ訪日団一行5名は11月30日、麗しい自然な景色に囲まれた神戸シルバーカレッジを訪れることができました。松島事務局長を始め、西田理事長、在学生、卒業生など合わせて11名の方々より心厚く応接していただきました。学校の施設や校舎の見学をした後、教室内の教学活動や陶器作りの実技も見学でき、懇談会にて学校の経営状況なども十分に伺えました。

中国と日本の老人は、机を囲んで座り、楽しく話し合い、昼食も共に摂りました。短い交流時間でしたが、印象深く、本当にいい勉強になりました。神戸シルバーカレッジは、神戸市の出資により、作られたもので、7学科があり在学生は、計1200余名います。授業料は、1学年5万円で、それは学校運営に必要な経費の半分のみで、不足分は、市役所より助成されているそうです。これにより日本政府が生涯教育をどのように重要視しているかは十分に窺えます。シルバーカレッジに通って楽しく勉強し、心身とも健康で調和の取れた社会になり、老人の病気治療にかかる政府の負担も低減されれば、まったく一石二鳥のよい投資だといえるでしょう。

この学校の特色として卒業生の多くが「グループわ」という、ボランティアの組織に参加され、児童館、小学校、福祉施設で社会公益活動に参加されています。特に東北大地震が発生した際、シルバーカレッジのOBは、自発的に被災地へ駆けつけて支援活動に参加されました。彼らの勇ましい行動と無我奉仕の精神は、若者たちに模範を示すものとなりました。中国の老人大学も全国各地にたくさん創設されており、一部成功の例も見せていますが、シルバーカレッジのように、優れた教学施設を持ち、合理的な管理が行われ、特に卒業後も「グループわ」のような組織で、OBの方々が続く社会へ貢献できるという面では、われわれが汲み取るべき良い手本となるのではないかと思います。

（楊氏の中国語原文を翻訳したものを一部割愛して掲載しました）

懇談会出席者・敬称略【中国側6人】邵寧（新民晚报記者・女性）邵伝烈（評論家）楊徳広（上海老年大学顧問）万潤龍（文匯報記者、中国のエイズ第1号報道）羅明暁（通訳）岡本義正（上海市観光局顧問）

【司会・通訳】江澤福（国際14・神戸市在住）【カレッジ側9人】土井昭政（国10）柳井秀友（国10）井口久美子（福16）海野龍英（食16）古後健一（福18）内村ナナ子（国18）平林啓子（食18）蘆田義和（わ本部）南形徹（わ広報）【応援】加藤卓子（福16）